

道徳教育研究会で学びました!

第59回道徳教育研究会は「道徳教育の新たな充実をめざして」をテーマに岐阜県下3会場において開かれました。(西濃会場は中止)もとす教育者道徳研究会は、7月28日(木)瑞穂市総合センターの岐阜瑞穂会場運営担当として、参加呼びかけを行いました。当日参加者数66名中35名(53%)でした。とりわけ瑞穂市立本田小学校には、不足物品を貸与していただく等、大変お世話になりました。**感謝**

開会式は、大野教頭先生(一色小)の進行で、国歌清聴後、岐阜県岐阜モラロジー協議会:臼井光昭会長の開会挨拶、公益財団法人モラロジー道徳教育財団・東海ブロック部長:三宅敏行氏による主催者挨拶がありました。全国各地64会場で開催されている紹介と参加者への期待を述べられました。また、瑞穂市教育長:服部照様には、来賓ご挨拶として市教育計画の紹介及び歓迎のお言葉をいただきました。



開会挨拶
臼井光昭会長



主催者挨拶
三宅敏行部長



歓迎のご挨拶
服部照瑞穂市教育長



進行(一色小)
大野琴美先生



会場の様子から
進行(本田小)
谷村三奈先生



第1講「人としての生き方」(公財)モラロジー道徳教育財団

生涯学習講師 福田 義男 先生

モラロジー生涯学習講師としての強い確信の思いを知った福田先生の講義でありました。

柔軟な物の見方・考え方で

一頭の馬の絵を回転すると蝦蟇になります。人の見方・考え方は、その心がけによって大きく変わるものです。例「あの人は頑固 → 一途」と考えれば、人に優しくなれます。「私は生かされている」と考えることが感謝する心で生きようになれるのです。常に心がけることでストレスの無い、明るい人生を歩むことが出来るのです。

喜びの仕事にすると人生は開ける

煉瓦積みをする男たち。Aは「俺は知らねえ…親方に聞いてくれ」Bは「ここには素晴らしい協会が建つのです」と。その意識の違いでは喜びの仕事にもなります。先生方の教える子どもたちにもBの様な生き方が出来ると嬉しいです。人生の勉強は何か、「集中力・反復力・忍耐力・工夫力・情報力・協調性」を身に付けることと言えます。その橋渡しをする先生の役割は素晴らしいものです。是非先生方には、尊敬される「恩師」になってご活躍いただきたいと思います。

福田先生へ(アンケートの感想から)

- 「恩師への感謝が次の世代を育てる力となります」の言葉にあるように、これからも共感的理解と受容の姿勢を大切にしながら、子どもたちの近くにいる大人の一人として、自分の仕事に誇りをもって取り組んでいきたい。
- つい決め付けて見てしまう、ネガティブに捉えてしまう、私自身の見方・考え方を変えていかねば…と強く思いました。



第2・3講「道徳科の特質を生かし、『考え、議論する』授業～人間理解、価値理解での具体的な指導～」岐阜聖徳学園大学教育学部非常勤講師 河合 宣昌 先生

河合先生は、道徳教育の実践家として岐阜県にとどまらず、愛知県や三重県の他、全国各地でお声がかかる多忙なお方です。時間いっぱい率直で具体的な講義をしていただきました。

令和の道徳科は「不公平」「いじめ」の脱却

道徳の時間があっても、長い間実施状況には地域格差がありました。公教育として受けた子、**講演中の河合先生**受けていない子には不公平感が出来ます。いじめの件数で小学校が上回る状況になったことも大きいです。その期待に応える道徳科になる必要があります。「第〇回道徳」を意識し、学年会での事前準備に力を入れ、先生方には「道徳科」を育てていって欲しいと思います。

「考え、議論する」という道徳科のキーワードは「意見交流」！

道徳科においては教材を通して、人間理解、価値理解を磨いていくという特質は変わりません。「考え、議論する」ことを時代の潮流と理解する先生の中には「討論する」との勘違いが見られます。私は、道徳教育がめざす「考え、議論する」姿を求めるには、話し方の指導が大切と考えています。「私はAと思っていたけど、〇さんの考えを聞いてBもあるかなと思いました。今はBの方かなと考えています」の様な「話型」の基本6パターンを身につけるのです。そうすることにより、聴く姿勢と共に、話す技能が豊かになります。他者理解や自己をみつめる（自己理解）ことも自然と表現しやすくなります。私の「話型」指導は、他の教科で育てていき道徳科で花開くのが理想だと考えたりもしています。

校長時代の学校へ参観に来られた方々が、子どもたちの「話型」を生かした話しぶりをご覧になり、驚かれると共に「アクティブ・ラーニングの実践を見た！」と褒めてくださったことを思い出します。



板書を活かした「考え、議論する」授業に

板書は、子どもの発言の羅列ではなく、要約した構造的なものでなければなりません。それは「予想される反応」を絞り込む教師の能力を磨くことに繋がります。分かり易く対比された板書を見ることで、子どもたちの発言がよりの確になり、より深めることが出来るのです。板書を使って、「考え、議論する」方向を示すことも出来るのです。



教材を使った道徳科の授業展開例

いつも後にした方の例示が時間的に窮屈になるので、今回は中学校を先にします。『卒業文集最後の二行』です。「いじめを許さない心」を考える教材です。…（この後、実際の授業の展開を想定して解説されていきました。具体的な説明により、9月からの実践に意欲をもたれた参加者が多かったようです。）

河合先生へ（アンケートの感想から）

- 中学校の資料、大変勉強になりました。価値把握での「考え、議論する」こと、やってみます。
- 今までやろうとはしていても、一人一人に考えをもたせることが出来ていなかった。授業で全員が考えを話せるように、発問・板書を考えていきたいと思った。

※独断的な内容のまとめとなりましたこととはご容赦ください。



閉会挨拶 子安一徳会長

閉会式は、岐阜県教育者モラロジー研究会・子安一徳会長より総括をしていただきました。まず講義内容に触れながら丁寧なお礼を述べられました。そして、主体的に学ぼうと参加した先生方の意欲こそ「自らの品性を高め、子どもたちを幸せに導くもの」と、価値付けてくださいました。

【文責・森山】